

令和８年度第２回一関市国民健康保険運営協議会 会議録

1 会 議 名 令和８年度第２回一関市国民健康保険運営協議会

2 開催日時 令和８年７月31日（金）午後１時から午後２時５分まで

3 開催場所 一関市役所 議員全員協議会室

4 出席者

(1) 委 員 千葉敏紀委員（会長）、千葉賢一委員（会長職務代行委員）、千葉哲夫委員、西城真奈委員、久保田宗次委員、小野寺佳美委員、小野寺ヨシ子委員、千田麗子委員、伊藤大介委員、田中正彦委員

※欠席者 千葉真美子委員、小山亜希子委員、秋保茂樹委員、杉内登委員、佐藤優委員

(2) 事務局 今野薫副市長、佐藤和幸健康こども部長、佐藤幸一健康こども部次長兼健康づくり課長、新沼健藤沢病院事務局長、佐藤宣裕市民環境部次長兼国保年金課長、渡辺恭弘市民税課長、樽石敬一収納課長、金野秀章藤沢病院事務局次長、日下尚也健康づくり課主事、小野寺恵一国保年金課長補佐兼国保係長、佐藤笑美国保年金課主事

5 議 題

(1) 報告第１号 令和７年度一関市国民健康保険特別会計決算について

(2) 報告第２号 令和７年度一関市病院事業会計決算について

(3) 諮問第１号 令和８年度一関市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍 聴 者 なし

8 副市長挨拶

昨年度及び前回の運営協議会において答申をいただいた、子ども・子育て支援納付金分の追加に係る条例改正については、議会において議決をいただき、令和８年度の国民健康保険税納付書とともに、８月１日から適用となる資格確認書及び資格情報のお知らせを被保険者の皆様に発送した。

国民健康保険を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、75歳到達による後期高齢者医療保険制度への移行や、被用者保険の適用拡大などにより、被保険者数の減少が続く一方で、医療の高度化や、高額薬剤の普及などを背景に、１人当たりの医療費は増加傾向にある。

更に、県が進める保険税水準の統一に向けた取組も進展しており、今後は県へ納付す

る国民健康保険事業費納付金の1人当たりの負担額の増加も見込まれるなど、国民健康保険の財政を取り巻く環境は一層厳しさを増していく。

本日の運営協議会では、令和7年度の決算報告、令和8年度の補正予算について、御審議いただく。委員には慎重な審議をお願いしたい。

9 諮問

副市長から会長に諮問書を手交

10 千葉敏紀会長挨拶

副市長の挨拶でも触れられたとおり、国民健康保険の運営について、被保険者数は減少傾向が続き、一方で医療の高度化などにより1人当たりの医療費は年々増加傾向にある。また、岩手県内における保険税水準の統一に向けた動向などもあり、国民健康保険の税率の見直しや財政調整基金の活用など、国民健康保険の財政を取り巻く環境は厳しさが続いている。

当協議会は国民健康保険事業の運営に関する事項について審議を行う会議であり、大変重要な役割を担っている。

本日の議事は令和7年度の国民健康保険特別会計、病院会計の決算報告、令和8年度の国民健康保険特別会計の補正予算第1号についての諮問の3件であるが、委員がそれぞれの立場から率直に発言をいただき、活発な協議や意見交換ができればと考えている。

11 審議内容

(1) 報告第1号 令和7年度一関市国民健康保険特別会計決算について

(2) 報告第2号 令和7年度一関市病院事業会計決算について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

(3) 諮問第1号 令和8年度一関市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 出産育児一時金の交付者数はどのくらいか。

事務局 22人である。

議 長 令和6年度に比べて税収がかなり伸びている。主な要因は何か。

事務局 所得が改善しており、事業所得や農業所得の増加が主な要因と捉えている。

議 長 意見であるが、税収の増、療養給付費の減少などにより想定よりも繰越金の増が見込まれる。税率を抑えることも検討いただきたい。

事務局 県内の国保税の統一に向け、県が中心となり取り組んでいる。事業費納付金について、医療費水準を考慮しない形で段階的に変更されている。その後、国保税自体の統一も見込まれるところであり、財政見通しなども考慮しながら検討していく。

委 員 県内での国保税統一の際、財政調整基金の持ち寄りとなると、被保険者の理解は得られにくい。基金の適正規模などにも考慮しながら検討いただきたい。

事務局 財政見通しの中で検討していく。

12 答 申

審議の結果、全員の挙手により、諮問のとおり承認され、会長から事務局へ答申を行った。

13 担当課 市民環境部国保年金課